

2026年4月8日
株式会社ソフトクリエイト

「情報システムの現状と IT 活用実態アンケート 2026」を公開

～ 人材不足で増す運用負荷、求められる守りと攻めの両立 ～

株式会社ソフトクリエイト（本社：東京都渋谷区／代表取締役社長：林 宗治、以下 ソフトクリエイト）は、情報システム部門の現状を把握するため、「情報システムの現状と IT 活用実態アンケート 2026」を実施しました。本調査は第 8 回目となり、情報システム部門向けメディア「情シスレスキュー隊」で調査結果を公開しました。

本調査から、情シス人材の不足が続く中、75%が日々の運用管理といった「守り」のノンコア業務に追われる一方、最優先課題として挙げられる「セキュリティ強化」や、「AI 活用」といった「攻め」の役割も同時に求められている実態が明らかになりました。

また、企業規模に応じた情シス人数の「分岐点」も明らかにしており、自社の情シス体制が適正なのか、客観的に比較・検討できるデータも示しています。

◆調査概要

調査期間：2025年12月22日（月）～2026年1月13日（火）

調査方法：自社ハウスデータベース上でのオンラインパネル調査

調査対象：Web メディア「情シスレスキュー隊」のメルマガ購読者で自社の IT システム運用に関与する方

回答者数：577名

調査企画/実施：株式会社ソフトクリエイト

調査結果資料：<https://www.softcreate.co.jp/rescue/document/detail/rescue/document/it-management-survey-report-2026>

◆サマリー



総評

情シスの75%が「ノンコア業務」に関与する時間が長い。

67%の情シスが「今後、セキュリティに注力したい」。

セキュリティ対策上の課題は「人材不足」「知見不足」。

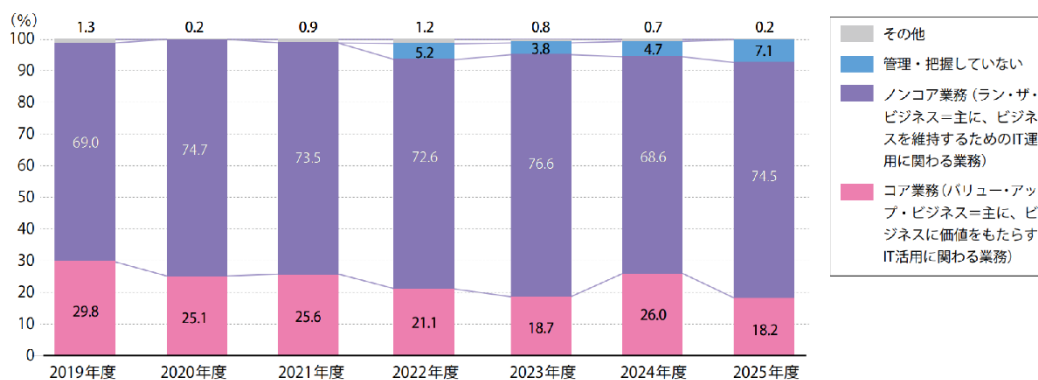
「AI活用+活用プロジェクト進行中」は初の5割突破。

◆人材不足が続く中、増大し続ける情シスの運用負荷

情シス人材の不足を「感じている」企業は74.0%にのぼり、依然として高い水準で推移しています。情シスが最も時間を費やしている業務は「システム運用・保守」や「問い合わせ対応」といった日々の運用管理業務（ノンコア業務）です。加えて、近年では「PCやデバイスの運用管理」に関する業務負荷も増加しており、これらノンコア業務に多くの時間を割いていると回答した割合は74.5%に達しました。

その結果、ビジネス価値向上に直結する戦略的な業務（コア業務）に注力できている情シスは18.2%にとどまっています。業務が減らないまま運用対象が増え続けることで、「守り」の業務に忙殺されるという構造的な課題がより深刻化している状況が示されました。

情シス業務のうち、コア業務・ノンコア業務どちらに関与する時間が長いか



一方で、こうしたノンコア業務の負荷軽減において、AI活用に期待が高いことも分かっています。実際に、過去に当社が実施したAIに関する調査※では、情シスがAIによって改善を期待する業務として「問い合わせや障害対応」(66.0%)、「システム運用・保守・報告」(43.1%)が上位を占めました。この結果は、今回の調査で明らかになった「情シスが最も時間を費やしている業務」と合致しており、AIが人材不足に悩む情シスの業務を効率化し、戦略的なコア業務へのシフトを後押しする鍵となり得ることを示唆しています。

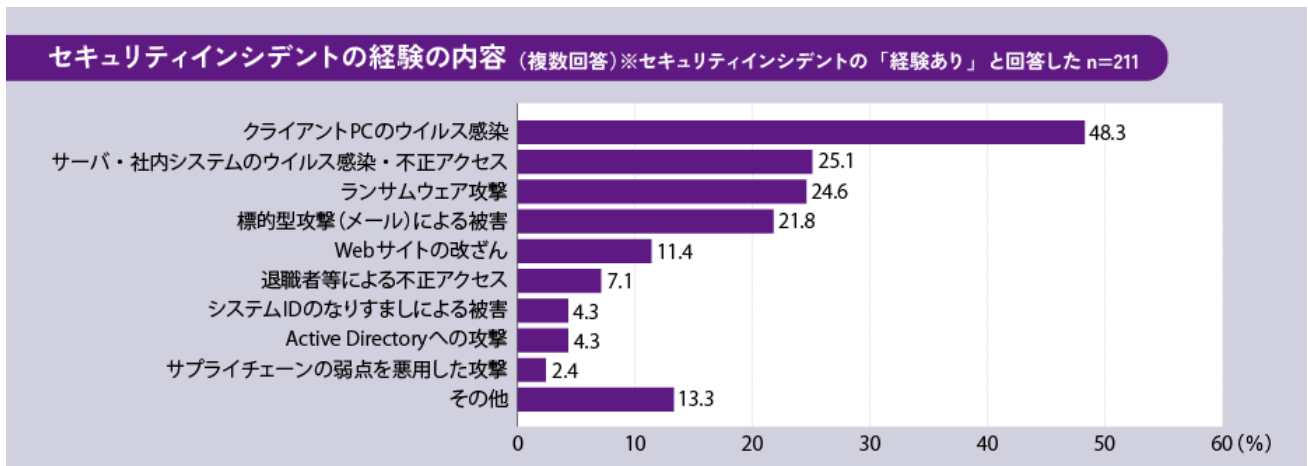
※株式会社ソフトクリエイト『AI導入・活用における企業の動向と情報システム部門の意識調査 2025』(2025年6月実施)

◆最重要課題は「セキュリティ」 攻撃は多様化し侵入後の対応が重要に

今後、情シスが注力したい活動として、「セキュリティ強化」を挙げた企業は66.9%にのぼり、他の項目を大きく引き離してトップとなりました。

この結果から、セキュリティ対策の重要性が経営・現場の共通認識として定着しつつあることがうかがえます。セキュリティインシデントの経験内容では、ランサムウェアやクライアントPCのウイルス感染に加え、「その他」ではビジネスメール詐欺なども挙げられました。特定の攻撃手法に限らず、リスクが分散・多様化している点が今回の調査の特徴です。

さらに、セキュリティ対策のフレームワーク（NIST CSF）に沿って課題を尋ねたところ、インシデント発生後の「対応」（59.6%）や「復旧」（56.7%）といった「侵入後」のプロセスに課題を感じる企業が約6割に達しました。これにより、侵入を防ぐ「防御」だけでなく、侵入を前提とした「対応・復旧」までを含めた対策の重要性が改めて示されました。

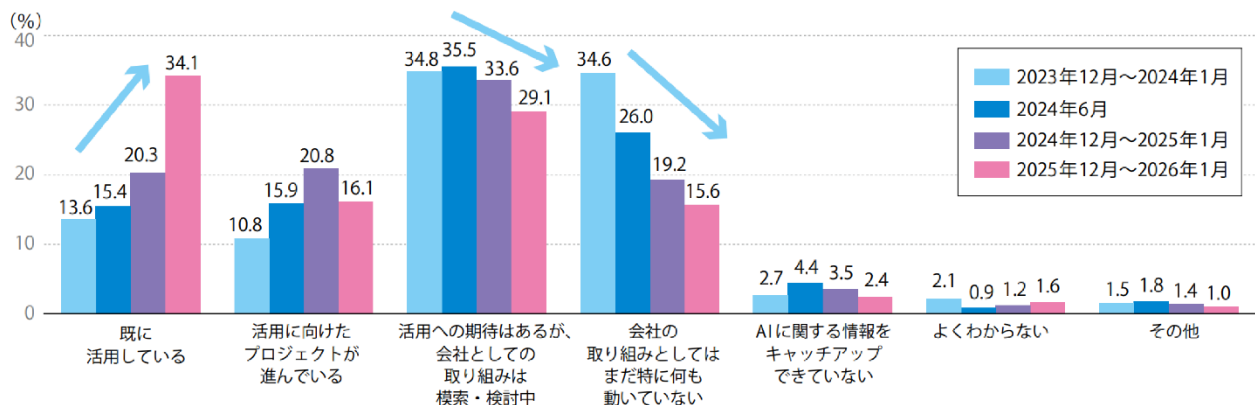


◆AI 活用は本格化フェーズへ。懸念は依然として「安全な運用」

AIの活用状況は、「既に活用している」（34.1%）と「活用に向けたプロジェクトが進んでいる」（16.1%）を合わせると50.2%となり、本調査で初めて5割を突破しました。AIが試行段階から本格的な活用段階へと移行しつつあることがうかがえます。

その一方で、業務でAIを利用する上での懸念点としては、「社員の情報リテラシーが十分ではなく事故が怖い」（57.2%）、「セキュリティや情報漏えいが心配」（53.4%）が引き続き上位を占めました。AI活用が進む中でも、「安全な運用」という課題は依然として解消されていないことが明らかです。AIの導入・活用が現実のものとなるにつれ、情シスには利便性の追究だけでなく、リスクをコントロールしながらAIを業務に定着させる役割が求められていると考えられます。

AIの自社の活用・取組状況



◆全ての調査結果は、以下調査結果資料よりご覧いただけます。

数字で見る“情シス”の実像 2026



[情報システムの現状と IT 活用実態アンケート 2026 調査結果の概要]

URL :

<https://www.softcreate.co.jp/rescue/document/detail/rescue/document/it-management-survey-report-2026>

<調査項目概要>

- ・エグゼクティブサマリー
- ・情報システム部門の運営状況について
- ・IT インフラの利用状況について
- ・セキュリティ対策について
- ・新しい IT、新しい働き方について

◆「情シスレスキュー隊」について

株式会社ソフトクリエイイトが運営する情報システム担当向けのメディア。情シスを中心に、情報システムを扱う中小企業の担当者の悩みを解決するメディアサイトです。生成 AI をはじめ、IT インフラ、システム運用、セキュリティなど幅広いテーマを取り扱います。

URL : <https://www.softcreate.co.jp/rescue>

■株式会社ソフトクリエイイトについて

ソフトクリエイイトは、お客様の変革に不可欠なベストパートナーを目指し、企業向けの総合的な IT サービスを提供しています。クラウド、セキュリティ強化、AI・DX 支援、IT インフラ構築を主要な事業とし、最適なテクノロジーを通じた「価値の提供」でお客様のビジネスを支援します。40 年以上にわたり、お客様と共に培った経験を生かし、日本全国の企業へサービスを届けていきます。

<会社概要>

会社名：株式会社ソフトクリエイイト

代表者：代表取締役社長 林 宗治

設立：2012 年 10 月

資本金：2 億円 (2026 年 3 月 31 日現在)

所在地：〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-15-1 渋谷クロスタワー

URL : <https://www.softcreate.co.jp/>

※ 記載している会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。



SOFT CREATE

進化し続ける IT、明日も未来も一緒に。

株式会社ソフトクリエイイト SOFTCREATE CORP.

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2 丁目 15 番 1 号 渋谷クロスタワー

■プレスリリースについて

企画統括部 佐藤

Tel : 03-3486-1520

Mail : sc-contact@softcreate.co.jp